

近世社寺建築研究集会

建造物研究室

近世社寺建築研究集会は、昭和六十二年十一月二十六・二十七日の両日、奈良国立文化財研究所講堂に於いて開催された。建築史研究者・文化財修理技術者等約130名が参加した。

文化庁の国庫補助事業による各県単位の近世社寺建築緊急調査は、昭和五十二年から開始され、昭和六十四年度には全国を終了するという時期にあって、調査の成果を整理し、近世社寺建築の平面・構造・意匠・技法等の特質を明かにするとともに、それを支えた生産体制・社会構造等との係わりの中でそれを評価するといった、様々な側面での研究が急がれる状況にある。またそれらを文化財の指定や修理等の文化財保護の指針となすことも必要である。こうした諸問題について情報を交換し、解明を加えてゆくべく、この研究集会を計画した。三ヶ年を予定するうちの第一回目となる本年は、近世社寺建築の主として本殿・仏堂の平面的な特質を全国的な視野から把握しておくことを目標とした。

第一日は、古代以来の建築の流れの中で近世社寺建築の特質を整理し、今後の研究の課題を提示した工藤圭章氏の講演「近世社寺建築研究の問題と今後の展望」、近世社寺建築緊急調査担当者へのアンケートをもとに調査の成果と問題点を総括した細見啓三の報告「近世社寺建築調査の総括」、寺院建築について、地域的な特性を整理した宮本長二郎の報告「近世社寺建築の地域的特性（寺院）」が行われた。第二日は、神社本殿の形式について地域的特性を明かにし、併せて細部絵様の編年の試みを紹介した上野邦一の報告「近世社寺建築の地域的特性（神社）」、南都の中世後期から近世初頭にかけての社寺の存在形態を制度的・経済的側面を中心に解説した永島福太郎氏の講演「近世社寺の社会経済基盤」があり、以上の報告等をふまえつつ、宗派毎の建築の特質について藤井恵介氏（天台・真言宗）・永井規男氏（禅宗）・櫻井敏雄氏（浄土系）・佐藤正彦氏（神社）・山岸常人（浄土真宗）から発表があり、これに基き、西和夫氏の司会のもとに、総合的な討論が行なわれた。なお宮本と上野の報告は、各県の近世社寺建築緊急調査報告書からすべての報告例をカード化して整理・分類した（当研究所建築関係研究員全員の分担作業による）データに基づくものである。

討論では、年代判定方法や調査内容（特に架構）等の調査方法から始まって、分類のための用語・細部部材名等の用語の問題、平面の改造や内部の使用法、更には仏堂を空間構成の面から分析すべきとの提言を含め、今後の新たな研究方法や課題の設定といった広汎な問題までが議論された。特に従来の調査では充分でなかった架構や構造についての分析が、平面だけを対比する従前の研究に新たな指針を与え、かつ今後の修理事業等とも直接関わってくる問題となる。なお、十一月二十八日には、蓮長寺・五劫院・三室戸寺・万福寺の見学会を行い、20名余りの参加をえて、実際の建物を前にしての議論が行われた。（山岸常人）